



「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時達成を進めています！



学びの質を高めながら、持続可能な学校に向けた働き方改革も同時に進める、そのような取組が横浜市内で多く見られています。実践校(※)への取材等を通じて、学校の特色に合わせた柔軟な日課表や予備時数等を調整した時間をうみ出す工夫とその効果が少しずつわかってきました。

そこで、今回は、ZOOMで行った11月の情報交換会で発表された好事例や参加者の声をご紹介します！

※持続可能な学校のあり方を探る公募型モデル事業(1)児童生徒のよりよい学びと教職員の時間をうみ出す工夫 14校

モデル校を大きくタイプ分けすると3パターン

① 午前中集中型 40分×5コマ

1コマを40分、給食前に5コマ実施
高学年でも15時には下校

【モデル校の教職員の声】

- ・児童の集中力の高まりを感じる。
- ・教職員の時間に関する意識の高まりを感じる。
- ・放課後の時間で、授業研究、授業づくりに向かえる。
- ・本取組の意義について丁寧に説明したことで、家庭と地域と共有しながら、進められるようになった。

② 短時間モジュールの柔軟な活用

1コマは原則45分
短時間モジュールを活用し、午前中5コマ実施
高学年でも15時には下校

【モデル校の教職員の声】

- ・30分+45分などの組み合わせで授業を取組むことで、活動時間の確保や学習のねらいに迫ることができる。思考が充実した。
- ・出張を伴う研修等に余裕をもって行くことができる。

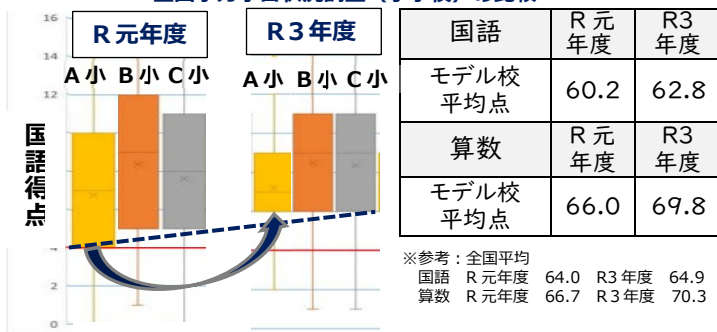
③ その他 独自の工夫をした取組

- ・1年生の午後の授業開始を「5月」から「6月初め」に変更区の研究会の月2回を給食後に下校(小学校)
- ・40分×7コマを想定した時間割づくり モジュール活用 朝の10分小テスト 放課後30分行事等の活用(中学校)

【モデル校の教職員の声】

- ・時間外の打ち合わせや会議が減った。
- ・会議時間を勤務時間内に設定ができるようになった。

注目! 「質の高い学び」に向けたきめ細かい指導の確立へ 全国学力学習状況調査(小学校)の比較



グラフや表から、柔軟なカリキュラム(午前40分5コマ等)の編成において、一人ひとりきめ細かい指導にかかる時間を少しずつ確保できたことで、学力の分布の範囲は縮まったと考えられるね。また、平均点の比較でも、R元年度と比べて、ほとんど変わらないことがわかるね!

注目! 「持続可能な学校の実現」 モデル校の平均時間外勤務時間も減っています!

4~6月平均時間	R元年度	R3年度	差 (R3-R元)
小学校	54.13	50.23	-3.90
中学校	54.17	51.25	-2.91

【情報交換会参加者の声】

- ・時間を生み出す工夫を、各学校の個性を生かして素晴らしかったです。当たり前ですが、自校の児童生徒に合わせて今後もカスタマイズしていく取組なんだと思います。
- ・自校で育てたい子どもの姿を教職員一人ひとりが共有し、それに合わせた教育課程の編成をしていきたいです。
- ・40分授業にすることも魅力的ですが、45分に慣れた職員の理解を得ること、またカリキュラムの見直し作業の大変さから導入することにためらいがあります。

11月2日、4日、5日情報交換会



三日間で24校、28人の参加をいただきました。意見交換会では、モデル校で取組まれている先生方に直接質問する機会があり、実践するにあたっての工夫などを共有しました。

注目! モデル校の各学校の具体的な取組は、こちらをご覧ください!

モデル校(14校)
あざみ野第二小、伊勢山小、牛久保小、釜利谷南小、川井小、川上北小、さわの里小、獅子ヶ谷小、菅田の丘小、つづきの丘小、中山小、羽沢小、六浦小、根岸中



意見交換会の声等を踏まえ、標準時数等の市としての考え方については、年内に改めて通知予定ですので、そちらもご参照ください。